

連続コラム

— 光秀の源流を探る —

第2回 名字の地、アケチの里はどこか？

土岐明智氏初代の頼重は、アケチの里を本拠として、その地名を名字にしたと伝わります。明地、明知、明智、当て字はさまざまですが、このアケチとはいったいどこだと思いませんか。可見市の明智、それとも恵那市の明智でしょうか。実はそのどちらでもなく、正解は「土岐郡の明智」なのです。沼田藩土岐家が江戸幕府に提出した系図（寛永諸家系図伝、寛政重修諸家譜所収）に明記され、竹中重門の著作「豊鑑」では明智光秀の出生地ともされています。沼田藩土岐家は土岐明智氏の嫡流ですし、重門は豊臣秀吉の軍師竹中半兵衛重治の子で、竹中氏と土岐明智氏は土岐宗家の下で代々同僚の間柄でしたから、この記述の信ぴょう性は高いといえます。

では、この「土岐郡の明智」とはどこでしょうか。旧土岐郡（土岐市、瑞浪市、多治見市の一部）内にアケチという地名は残っていませんが、「駄知」というヒントが

あります。駄知は「駄地」、つまり開発の困難な良くない土地という意味なのですが、それは明るく開けた良い土地「明地」があったからその地名です。頼重の領地だった妻木郷に属し、駄地に隣接して明地と呼ぶに相應しい土地は「妻木町と下石町」の平地以外にありません。実際、頼重が本拠としたのは現在の妻木町で、妻木平遺跡内から巨大な居館跡も発見されています。アケチの里が土岐明智氏の下で発展し、妻木村と下石村に分化していく過程でアケチという地名は徐々に使われなくなっていくたのでしょう。そのことを明確に示す文書史料は未発見のため、まだ仮説ではありますが「土岐郡の明智」は「妻木町と下石町」だと考えられるのです。

ちなみに、土岐明智氏が可見郡や恵那郡の明智を領有した証拠はないのですが、光秀の出生地についてはさまざまな推論がなされ、諸説紛々なのが現状です。

土岐市美濃陶磁歴史館特別展
「～光秀の源流～土岐明智氏と妻木氏」
9月13日(日)まで会期延長



土岐郡の明智の里か?! (妻木町と下石町)



妻木平遺跡内
明智氏居館跡